

仙台の思い出

金子公一（昭和53年卒）
医療法人光風会 光南病院 院長



仙台には学生時代の6年間お世話になったのみで、入学からは既に50年以上経過して記憶も曖昧になり、思い出を語る資格に乏しいと思うところで。しかし、仙台はその環境の良さに加えて周囲の方々、仲間、先輩など多くの人々に恵まれ、卒業後もお世話になってきています。仙台での生活は短い期間でしたが大変充実した時間を過ごし、第2の故郷と想っています。懐かしい思い出はたくさんありますが、入学時の思い出を少しばかり記します。

宿泊の確保ができて一安心しました。上野駅から特急「ひばり」で4時間かけて木造の仙台駅に到着し、先輩に迎えに来てもらい下宿に向かいました。路面電車の走る町並みはホッとすることがありました。

下宿は6畳一間でしたが、先輩が下宿の主（おばさん）に後輩が医学部受験で泊まると伝えたところ大騒ぎになり、結局母屋の立派な客間に泊まって、試験当日の弁当まで作ってもらって受験しました。高卒の若い身には慣れないことばかり、しかも試験当日は雪で体調も優れませんが何とか入学することができました。

入学後は上杉の附属小中学校の裏にあるその下宿にお世話になるつもりでしたが空きがなく、すぐ近所の下宿を紹介してもらいました。私のお世話になった下宿は文学部、法学部、工学部、農学部と私の東北大生5人、ご主人は高校教師でした。下宿は6畳一間で朝夕2食の賄い、休日、祭日は食事なしで外食という生活でした。仙台の町では学生は大事にされ、特に東北大学、中でも医学部の学生は大変大事にされて文字通り伸び伸びと青春を謳歌しました。皆がやっていた家庭教師のアルバイトも幾つかしましたがどこも待遇が良く、食事やお土産、風呂まで勧められ、教える当人よりも両親の対応に困惑

して長続きしませんでした。

川内の教養部では大学紛争（授業料値上げ阻止闘争）でヘルメット姿の学生が闊歩し、授業も中止されることが多かったと思います。その光景は区内での高校時代にヘルメット姿の大学生が校内を占拠して授業ができなかった光景に重なり、時間をかけて全国に広がっていることを実感しました。

卒業後は学生時代のスキー部の先輩が多数在籍している葛西外科（第二外科）に入局するつもりでしたが、同級生の勧めもあり（彼は内科ですが）、三井記念病院で研修することにしました。三井記念病院外科の大谷五良部長は東大出身ですが、葛西森夫教授とは旧制二高での旧知の間柄とのことで、葛西教授からも三井記念を見てこいと言われて5年間の外科研修を修了しました。その後は強い誘いもあつて三井記念病院外科出身者で立ち上げられた新設の埼玉医科大学第一外科に入局し、当初考えていた葛西外科へ入局することなく今日に至ります。

埼玉医科大学には35年間にわたり在籍し、その間、良陵同窓会埼玉県支部長も務めさせていただきました。今後も良陵同窓会を盛り上げてゆきたいと思っております、どうぞよろしくお願いたします。

関東良陵だより

令和六年十一月発行
(第五十八号)

関東良陵同窓会総会・懇親会報告
関東良陵同窓会会長 飯野正光（昭和51年卒）

7月6日（土）の夕刻より令和6年度関東良陵同窓会が開催されました。44名の先生方から参加申し込みいただき、当日所用で欠席されたお二人を除いての開催となりました。総会では事業報告と会計報告の承認、リニューアルされたウェブサイト（<https://gonyo.org>）の紹介、総会の取材に仙台から訪れてくれた良陵新聞記者の廣田泰君（東北大学医学部5年生）が紹介されました。

引き続き講演会に移りました。副会長の深津玲子先生の座長で行われた堀川玲子先生（昭和58年卒）の講演では、ご専門の小児内分泌学を旨とされた経緯、米國留学中にいった成長ホルモン受容体のクローニング研究の成果、現在進められている臨床研究及び海外協力など、多岐にわたる先生のご活躍の足跡を伺いました。日本の女性の身長は年々伸びているものの体重の増加がともなっていない。妊婦でもそのようになると、胎児の成長に好ましいことではなく、小さく生まれた子どもはインスリン抵抗性が高くなる傾向があることから、将来の生活習慣病の危険度が増すという、重要な結果もお示しいただきました。

続いて、前会長・押田茂實先生の座長により安達登先生（平成4年卒）の縄文人に関するロマン溢れる講演を伺いました。法医学に進むことになった経緯、古代人の骨から現代人のDNAの混入を防ぎながらDNAサンプルを調整することの難しさと、その克服方法など研究の過程をご紹介いただきました。ミトコンドリアDNAの解析結果から、縄文人は周囲のアジアの人々とはかなり離れた遺伝的背景を有していて、日本列島はかなり孤立した状態だったこと、



また、日本列島内に地域差があったことから、各地域間の交流は多くなかったものと推定できることでした。最近では、DNAサンプルの状態がよければ全ゲノム解析が可能なのも紹介されました。専門的な内容をわかりやすく、かつウィットに富んだ語り口で説明していただきました。

大いに、知的好奇心を掻き立てられた後は、懇親会場に移動し、荒井他嘉司先生（昭和36年卒）の乾杯の首領を皮切りにさらに懇親を深めました。席次は、受付で引いた番号によって決まるので、誰と隣り合う席になるかその場に行かないと分からないのも楽しみの一つです。外国特派員協会の美味しい料理とビール・ワインなどを楽しみながら、同じテーブルの人たちと一渡り話が弾んだところで、全員が番号順にスピーチを行い、近況等について紹介しました。様々な活躍の様子を聞くのは同窓会ならではの楽しみです。

デザートが配られた頃には、全員のスピーチが終わわり、副会長の深津先生の中締め挨拶に続き集合写真を撮影して閉会となりました。閉会後も名残を惜しむ話の輪があちらこちらにできて、楽しい一夜の余韻を楽しむことができました。なお、来年の総会・懇親会は2025年7月19日（土）に同じ会場で開催予定です。



略歴
昭和53年 東北大学医学部卒業
三井記念病院外科研修医、医員
昭和58年 埼玉医科大学第一外科助手
昭和63年 同 講師
平成13年 同 助教授
平成16年 埼玉医科大学呼吸器外科教授
平成30年 医療法人光風会光南病院院長

※本年度会費を未納の方は年会費五千円を同封の振込み用紙により、ご納入をお願い致します。

同封した用紙の使用でATMからの振込料は無料。現金での振込料は手数料百円となりま

す。（会計担当幹事）

東北大学良陵同窓会
関東連合会 東京支部
〒121-0831
東京都足立区舎人 3-11-26
株式会社 同窓会事務局
TEL: 0120-10-9899
(内線 172)
FAX: 0120-10-9184

幹事紹介

循環器から病院経営・
企業経営の領域へ

川名正敏（昭和53年卒）



昭和53年卒の川名正敏です。学生時代に生理学(星教授)、薬理学(平教授)の授業で心臓に興味を持ち、卒業後すぐに東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所(当時)循環器内科に入局しました。長年CCUで心臓救急・集中治療に

従事した後に渡米し、帰国後は心臓移植を含めた重症心不全治療を中心に学会や厚労省を通じて慢性心不全に対するβ遮断薬治療、デバイス治療の普及や心臓移植再開などに関わってきました。2005年から分院の院長となり病院経営に従事していましたが、2014年に当時医療事故で混乱していた本院に戻り副院長として医療安全管理システムの再構築、集中治療室の再編各専門領域の人員や組織の刷新、内科系の診療・教育システムの統合など行つて2019年3月に無事定年退職しました。その後は特任教授として内科系の統括やCovid-19対応責任者を務め本年3月大学の診療を終了しました。特にこの数年間、大学では「ガバナンス」の問題が続いていましたが、ようやく現役の人たちが働きやすい形での解決に向けてメドが立ちホツとしていくところまでです。

私の仕事が循環器領域に加えて病院経営へシフトしていく中で、55歳で一念発起して経営大学院で学んだことが大変役に立ちました。さらに、2018年には総合商社の伊藤忠商事(株)からお話を頂いて社外取締役に就任、2019年には医療系企業メドピア(株)の社外取締役も務めており、企業経営の最重要事項の決定に関わる責任の重さを常に自覚しています。このようにやや変わったキャリアにはありますが、同窓生が将来のキャリア・パスを考えながら繋がり成長しあうことに、幹事として少しでもお役に立てればと思っています。

幹事紹介

消化器内視鏡とともに40年

安田宏（昭和59年卒）

聖マリアンナ医科大学 消化器内科教授

昭和59年(1984年)卒の安田宏と申します。教養部時代は全学クラシックギター部が生活の大半を占めていました。医学部ではバスケットボール部と良陵新聞に所属していました。バスケット部は練習後に王将でビールを飲むのが楽しみでした。良陵の先輩が多く活躍されていたことから卒業後、三井記念病院の内科レジデントとなりました。循環器系で有名な病院でしたが消化器内科の科長に「内視鏡を身につければどこでも食っていけるよ」といわれ消化器内科を専攻しました。同期レジに

誘っていたとき内視鏡の発祥の地である旧東大分院内科にお世話になり、東北大学には戻りませんでした。同期が都内で多く研修しており、先行き不透明な身分であったことから情報交換も含めて不定期に集まりを開いていました。最初の頃は銀座ライオンで飲んでいただけのお世話になった法医学の押田茂實先生が日大教授に就任され、自然と押田先生を中心とした同期会が開かれるようになりました。当時はまだ若かったのですが、神津康雄先生、高橋俊雄先生ら歴代の会長先生も顔を出してくださいました。詳細は岩瀬光先生の関東良陵同窓会HP「沿革」のコラム参照ください。米国バージニア大学に留学した際は、東北大学外科の寺澤孝幸先生(昭和58年卒)がちょうど帰国される際で、トヨタカローラも含めて家財一式を安く譲っていただき、大変助かりました。様々な変異三量体G蛋白をバキエロウイルスで発現させ試験管内で再構成して機能解析するという、生化学的な仕事を行ないました。7月の総会でご講演いただいた堀川玲子先生(昭和58年卒)・良史先生(昭和56年卒)ご夫妻には在米中家族ともども大変お世話になり、良陵のご縁を感じました。帰国後は、昭和大学藤が丘病院、聖マリアンナ医科大学とアカデミアの辺境で内視鏡診療を中心とした消化器内科医を続けてまいりました。川崎市の胃がん内視鏡検診事業の立ち上げからお手伝いさせてい

略歴

1978年 (昭和53年) 東北大学医学部卒業
東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所(当時)循環器内科入局
1991-92年 Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School 研究員
1992-93年 Vanderbilt University School of Medicine 研究員
2005年 東京女子医科大学循環器内科教授、附属青山病院病院長
2008-10年 ビジネス・ブレイクスルー大学院グローバル経営学研究科(MBA)
2014年 東京女子医科大学病院副院長、総合診療科教授、循環器内科教授
2018年 伊藤忠商事株式会社社外取締役(現任)
2019年 東京女子医科大学定年退職、特任教授(～2022年)
メドピア株式会社社外取締役(現任)
2023年 医療法人社団ゆみの 顧問(現任)



ただいたこともあり、先日は関連学会を主催させていただきました(写真)。総会に出席するようになったのは、バスケットボール部の先輩である飯野正光先生が会長になってからという不屈き者ではございますが、このたび幹事を拝命いたしました。進路の相談など多少のアドバイスはできると思っております、若い先生方も、どうぞ気楽にお声がけください。

リレーエッセー

マルチが面白い

落合博子（平成3年卒）



リレーを引き継ぎました、落合博子です。気がつけば、私の形成外科医としてのキャリアは30年を迎えました。東京医療センターの手術室で働く女性医師として、いつの間にか最年長になっていることに驚きつつも、感慨深く感じています。形成外科の魅力は、手術の成果が外見や機能の面で目に見える形で現れる点です。つまり、術後の経過や変化を患者さんと共有しながら実感できるといふ分かなりやすさがあります。一

方で、患者さんの個体差や目標設定の多様性があるため、定型的な治療だけでは対応しきれない困難さも伴います。基礎的な知識と技術に加えて、常に工夫を凝らすことが求められますが、この創意工夫こそが形成外科の醍醐味であり、私が今でも楽しく手術を続けている理由だと思っています。

仕事一筋だった私ですが、ある時期から形成外科の枠を超えて肩書きが増えてきました。医師としての国際自然森林医学会認定医のほか、森林セラピスト、コーヒーマイスター、ラフターヨガインストラクターも加わりました。これらの資格は、たまたま縁があったり、興味を持つて学んでいるうちに自然と取得したものです。新しい学びは日常生活にも活かされています。最近の大きな変化は、ほぼ毎週末に時間を作ったこと。自然の中で心と体を解放する時間は、トレーニングも兼ねており、欠かせない贅沢なひとときです。この経験から、森の健康効果への興味をわいて研究したり論文を書いたりすることに繋がりました。森林医学は私の新たな専門分野となりつつあります。

実は現在、この原稿をリトアニアで書いています。これは、唯一の日本人として森林医学関連の学会で発表する機会をいただいたためです。このようなユニークな経験は、形成外科に従事するだけでは得られなかったに違いありません。また、「自然」をキーワードに、「美

容常識の9割はウソ」という本を執筆する機会にも恵まれました。自然の力を信じるのが、健康と本来の美しさを生むというメッセージを込めました。余談ですが、この本の中で「顔を洗わない」という私の習慣をカミングアウトしたのですが、皆さんの常識に疑問を投げかけるきっかけとなり大きな反響がありました。振り返ってみると、これまで私が興味を持って取り組んできた分野が、実は「自然」というキーワードで繋がっていることに気づきます。一見バラバラに見えた専門分野が、広い視野を持つことで共通項で結ばれ、より深みと意外性を持つものへと成長していく。そのプロセスには、独特の面白さがあります。常識にとらわれず、マルチな視点を持つためのヒントは案外こんなところにあるのかもしれない。

略歴

1984年 東北大学医学部卒業、同年5月より三井記念病院内科レジデント(臨床研修医)
1988年12月 東京大学第四内科に入局
その間、群馬大学内分泌研究所(小島至教授 1991年～1992年)、米国バージニア大学(JC Garrison教授 1995～1998年)で研究
2001年10月 昭和大学藤が丘病院消化器内科講師

2009年1月 聖マリアンナ医科大学消化器内科准教授
2010年4月 聖マリアンナ医科大学消化器内科教授、現在に至る
現在、聖マリアンナ医科大学病院内視鏡センター長、医療安全管理室長を兼務

略歴

1991年山形県長井市立病院で一般外科研修、1994年慶應義塾大学形成外科学教室入局、2003年より国立病院機構東京医療センターの形成外科科長(現職)。そのほか産業保健室長、乳房再建センター長、再生医療研究室長、東京医療保健大学臨床教授、を併任。
日本形成外科学会専門医、日本再生医療認定医、日本医師会認定産業医、健康スポーツ医、米国ライフスタイル医学会認定医、日本抗加齢医学会専門医